

大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■クラブ創立：2000年1月13日
 ■例会日：毎週水曜日（12：30～13：30）
 ■例会場：中部コミュニティセンター TEL0475-73-3337 FAX73-4360
 ■事務所：〒299-3251 大網白里町大網450-6 ユアサビル2階 TEL0475-70-0200
 ■会長：宮間 文夫 幹事：大越 将司
 ■広報・公共イメージ向上委員会 委員長 石田 英世 副委員長 小高 徹



2018年9月12日(水)

第20巻 第10号

通巻第870

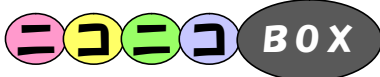
<http://www.oamirotary.com>
 E-mail ro@oamirotary.com



インスピレーションになろう

本日の例会

点 鐘 会長 宮間 文夫
 ソング それでこそロータリー
 会長挨拶 会長 宮間 文夫
 幹事報告 幹事 大越 将司
 卓話 内山いつ様
 「伊能忠敬」 後編



四之宮由己会員

本日の卓話は、長谷川さんの奥さんのお姉さんです。九十九里出身、伊能忠敬さんのお話を2週にわたってお話して下さいませ。宜しくお願いします。

星野 実 会員

誕生日有難うございました。

大越将司会員

子ども食堂全3回を無事に終えることができました。協賛頂いた大網RCの皆様、ボランティアの皆様、全ての方々に感謝致します。ありがとうございました。

例会日	9月5日	8月22日
会員数	31	31
出席	20	19
欠席	11	12
MU	0	6
免除	2	1
出席率	70.97	83.87

会長挨拶

宮間 文夫 会長

皆さん、こんにちは！この1週間いかがお過ごしでしたでしょうか？

先週は、夜間移動例会を暗闇の中おそかに行われました。

さて、私は、入会以来、会員増強委員長、副幹事、幹事、会長エレクト、会長と務めさせていただいておりましたが、仕事の都合もございまして、どうしても出席できない事がある事は、役職をお受けする際、会員の皆様方には、ご理解いただいていると思います。

しかしながら月の第1例会、その日の理事会に私が出席できない場合は、日程を変更する事も必要ですよ！とアドバイスをいただいておりますので、今後そのような場合は、理事会の日程変更をお願いするかもしれません。

さて、本日は、内山いつ様が、伊能忠敬前編と題して卓話をいただけるという事で宜しくお願いします。又、加藤会員、星野会員、誕生日祝いおめでとうございます。

そして、関谷会員におかれましては、皆出席5年表彰、堀本会員、吉原会員におかれましては、皆出席1年表彰されます事、誠にありがとうございます。

それでは会員の皆様におかれましては、ご自愛下され、ロータリー活動をしていただけますようお願い申し上げます、会長挨拶と致します。ありがとうございました。

皆出席表彰・奨学金授与式・誕生日



5年 皆出席 関谷清一会員



米山奨学生 ナディーシャさん



加藤洋三会員・星野実会員

<会員増強・維持拡大委員会 委員長 大塚和良会員>



皆さんのお知り合いを新会員としてご推薦ください！
 アンケート用紙を会場に用意しておきますので、
 お一人最低でも一名の方をご記入下さいませ！

1. 協議事項

- ①ロータリーカードについて
クラブとして入る
- ② 9/19 (水) 開催 第7グループ 情報
研修会開催について
会場：中部コミュニティセンター
※中部コミュニティ閉館時間 17:00
2F視聴覚室 (定員 100名 12:00~16:
30 予約)
第1.2会議室 (12:00~14:00 予約)
※大網RC会員、お客様控え室として利
用します。
東側駐車場 (午後 12 時より貸切)
※中部さんの方でラミネートされた紙
(大網RC貸切)をフェンスにくくって
くれる) 1

セミナー会議及び今後の行事予定

①第8回ガバナー補佐会議

日時：2018年9月8日(土)
13:30 受付開始 14:00 会議
会場：三井ガーデンホテル千葉
3階「飛鳥」
出席者：高山G補佐

②奉仕プロジェクト推進セミナーにつ
いて

日時：2018年9月16日(日) 12:30
受付開始 13:00 開会点鐘
会場：TKP ガーデンシティ千葉
登録料：1クラブ3,000円
出席者：高山ガバナー補佐、板倉孝雄会員

③会長幹事会

日時：2018年10月5日(金) 18:00~
会場：志津本
登録料：各クラブお1人 10,000円
出席者：高山ガバナー補佐、石田補佐幹
事、宮間会長(欠) 大越幹事 3名出席

④平成30年度大網白里市産業文化祭出
店について

日時：2018年10月20日(土) 9:30
分開会 ※雨天21日(日)
会場：大網白里市運動広場(南飯塚477
番地1)

⑤ 2018-19年度地区大会について

【大会第1日目】

高山G補佐、会長、幹事出席
日時：2018年10月27日(土)
於：ホテル ザ・マンハッタン
12:30 登録開始 13:00 点鐘
RI 会長代理歓迎晩餐会 17:30~ 1
人 17,000円 晩餐会出席：高山G補佐
【大会第2日目】会長、幹事、会員出席
日時：2018年10月28日(日)
於：ホテルニューオータニ幕張
8:30 登録開始 9:30 点鐘
※本会議後のスーパー懇親会(無料)に
も是非ご参加下さい。

懇親会欠席

⑥ 第42回RYLAセミナー

日時：2019年2月2日(土)~3日(日)
1泊2日
会場：岩井海岸 甚五郎 南房総市久枝
参加者：斎藤幸男会員

卓 話

九十九里郷土研究会 内山 いつ 様

郷土が生んだ科学の先駆者

伊能忠敬翁の生涯を思う(1)



推歩(すいぽ)先生! あまりに熱心に天体観測に励んだことからそう呼ばれていた忠敬翁。幾度となく見つめ、中象限儀で測った
天空に旅立ってから、今年で200年の歳月が流れました。
地球の大きさと形を知りたい、子午線一度の長さを知りたい、その
思いが募り、隠居後の寛政12年(1800)閏4月(新暦6月)全国測
量の第一歩を踏み出したそうです。55才の時でした、以降17年に
わたり全国津々浦々を歩き尽した距離は、実に四千万歩に及びまし
た。

途方もない足跡がやがて功績となって開花、結実しました。比類のない正確さと芸術性を備えた「伊能図」、
即ち「大日本沿海輿地全図」です。そして深い郷土愛と使命感を持って、郷土のために尽くしました。
飢餓と凶作で村が困窮した際、私財を投げ打って人々を救いました。これには伊能家に代々伝わる家訓があり、
「村人や困っている人たちのために尽くせ」という教えを忠実に守ったのです。
それは九十九里浜で育った幼少期のことが胸中にあったのではないのでしょうか。縁あって佐原の伊能家の養
子となり、ずっと商人として生きた前半生でしたが、後半生まで夢をあきらめない根気があったと思います。

☆次は50年余り前、大先輩の宮崎茂一郎氏から伺ったお話です。

郷土の自慢ばなしとして先人たちより語りつがれたそうです。

上総国山辺郡小関村(現九十九里町小関)の小関五郎左衛門家に生れた三治郎(忠敬)は、母ミネ、父は武
射郡小堤(現横芝光町)より婿養子に迎えられた神保貞恒でありました。

小関家は村一番の富豪で、あぐり漁業を盛大に営んでおり、兄貞詮、姉フサと共に恵まれた幼年時代を送っ
ておりましたが、三治郎6才の時母が病死し、父は兄、姉を連れ実家の小堤村へ帰ってゆきました。以後、
三治郎6才より10才まで、両親、兄姉と離れて生きた日々を思いますと、後に偉大な仕事を残される人生
となりましたのも、九十九里浜の荒波に鍛えられた根性と執念がその源となったような気がいたします。
年月が過ぎ、故郷の九十九里沿岸にも実測地図作成のため訪れたそうです。

村人たちは、天と地がひっくり返る程の大騒ぎであったとか。「大変だあー大変だ、小関のさんず(幼名三
治郎)が江戸のえれー役人になってきたんだってヨー。」まるで村中がてんやわんやであったそうです。
忠敬はそと抜け出し、生家の小関家へ戻り、亡き母の眠る墓前に身を寄せました。そして近隣の村人たち
と再会を喜び、久方ぶりの生れ故郷での思い出話にしばしのひとときを過ごし、人々は「さんずーおめえ、
えれえーくなったなあー。」と称えたそうです。

☆生涯の友、飯高惣兵衛

家号粟生の唸居、尚寛、瀧塗(はりょう)、俳句、漢詩を残す。

享保19年(1734)文化2年(1805)忠敬の旧友、山辺郡粟生村、地方代官で網主であった、三治郎幼少の
頃より励まし、時にはいさめ、終生の支えであった、惣兵衛を兄のように慕いつづけた。

彼は幼名を清三郎と名のり、姉家督の習慣のもと、中台村(芝山町)の伊藤家へ婿養子に入りますが、そ
の時期、三治郎小堤村へ帰った頃、隣り部落に住んでおり、相方の交流は深まっており、妻の千世も三治郎
の良き相談相手であったと言う。しかし実家の兄早世し妻と復籍し、粟生に帰り、惣兵衛の名を継ぐこと
になりました。

享和元年、第二次測量の途次、惣兵衛宅を訪れた忠敬は、旧友に向けて幕府の待遇の悪さを訴えたらしく、
彼をなぐさめ、励ました漢詩が残されている。

木島里八氏の読み下し文と口語訳を引用します。

「伊能氏訪ねられ、別後、此に賦して之れを贈る。寂莫(せきばく)たる柴門薛蘿を掛く。君が今夕此に相
過るを喜ぶ。九江の漁網我家の事。唱うを休めよ、馮驩長鉄の歌。」

「ひっそりとして寂しい、しかもむさ苦しい門にはつたかざらがからまり掛かっている状態の我が家に、君
がいそがしい時間を割いて、この夕べ立寄ってくれたことは、ほんとうにうれしいことだ。君に比べて、私
は相も変わらず、九十九里浦の網主を生業としている。むかし、斉の猛嘗君に仕えた馮驩は『長鉄の歌』を歌
って待遇の悪さをなげいたが、君は、いまや幕府御用の測量方として、晴れがましい立場にあるのだから、
少々不平はがまんして『長鉄の歌』を歌うのはやめなさい。」

忠敬は生涯「九十九里浦の翁」と敬っていた。

文化元年(1804)惣兵衛の古希のお祝いに送った歌が残されている。

八十迄 ひきもよはらぬ老の弓 やさしが浦に年を経ぬれば

※季刊誌「雷鼓」のご縁で、伊能忠敬の子孫で、忠敬より数えて七代目の伊能洋氏に出会い、忠敬の人柄な
ど学ぶことができました。次回はそのあたりをお話させていただきます。